



第41号

平成27年3月31日 発行

発行者 山梨県子どもクラブ指導者連絡協議会
事務局 山梨県甲府市川田町506
県立青少年センター別館内
TEL 055-226-0924
FAX 055-226-0925



山梨県子どもクラブ指導者連絡協議会

2014年を顧みる



山梨県子どもクラブ指導者連絡協議会
会長 小林 博夫

子ども達と活動を共にしながら感じることに、知識が大変に豊富であることに驚かされます。それは多分、マス・コミュニケーションの影響であり、特にテレビメディアから受けるものであらうと思われま。大人びた子ども達に対して、無気力であったり、無感動であるのが現在の姿であるなどと云われます。活動量の低下が無気力化をもたらすようです。子ども達の活動を制約するテレビというメディア装置が、子ども達にとってきわめて接近しやすいものであることは、子ども達が他の活動を選択する可能性を著しく狭めてしまう事に成ります。テレビの前にじっと動かず座っている。そのような姿勢を長時間とり続けることは、結果として子ども達の身体活動を著しく低下させます。

子ども達が心身共に健やかに成長するには先ず身体活動が必要だろ。うと思。人間は体内から多くのホルモンを分泌します。その中にドーパミン（神経伝達物質）とかセロトニン（脳の活動を高める等）というホルモンがあります。このホルモンは、感動し、喜び、大いに笑い、極力身体を動かすことなどにより活性化するそう。こうしたホルモンを盛んに分泌するよう心がけながら、限られた時季と行事内容でしたが努力して参りました。

諸事業を顧みたいと思。先ず、キャンプ研修の「夏休みふるさとランドカーニバル」、参加者は子ども45名、役員・シニア・ジュニアリーダー28名のご協力を頂きました。天気には恵まれまし

たが役員の出労が少なく難儀しました。本会の大きな事業である、「第48回子どもクラブ親睦球技大会」は昨年。に続いて本会が中心となり行いました。参加チームは、ソフトボール14チーム、ミニソフトバレーボール11チームが異年齢の交流を図り、熱戦を展開して頂きました。運営に少し不手際があり反省点になりました。

本会の必須事業でなければならぬ、指導者及びリーダー研修会は充実した内容でした。特にシニア・ジュニアリーダーが随所で中心的な役割を果たして盛り上げて頂きました。社会教育の一翼を担う本会として、持続可能な組織にするため、次代を担うリーダーの育成が喫緊の課題であり、本年度、シニアリーダー（甲斐市、笛吹市）・ジュニアリーダー（中央市）で組織をそれぞれ結成して下さり、諸事業への参加を得て盛り上げて頂きました。

参加事業である、「全国子ども会育成中央会議・研究大会」が、テーマを「自然との共生・未来に贈りたい環境」と定め、スローガンを「子どもたちに残し、伝えたい自然をなごやから」とし、2月20日～22日の日程で名古屋市で開催され、本県から多数参加協力を頂き有意義でした。

これに先立ち総会に於いて、27年度から安全共済会加入年齢を0歳からにすることに決定しました。行事に参加する子どもに付き添う保護者が幼児を同伴した時の対策です。有効に活用して下さるようお願い申し上げます。

諸事業にご協力下さいました多くの皆様に感謝申し上げます。



第43回 山梨県子どもクラブ親睦球技大会

- 日 時：平成26年8月67日(土)
- 場 所：県立青少年センターグラウンド、甲府市立甲運小学校グラウンド、リバース和戸館体育室
- 参加チーム：ソフトボールの部13チーム、ミニ・ソフトバレーボールの部11チーム

	ソフトボールの部成績
優勝	本町子どもクラブ(北杜市)
準優勝	三富子どもクラブ(山梨市)
3位	西保子どもクラブ(山梨市)
3位	七本杉子どもクラブ(富士河口湖町)

	ミニ・ソフトバレーボールの部成績
優勝	河内子どもクラブ(笛吹町)
準優勝	下野原子どもクラブ(笛吹市)
3位	大栄子どもクラブ(甲斐市)
3位	上手子どもクラブ(北杜市)



平成26年度 全国子ども会会長表彰

指 導 者 伊 藤 豊 次 (甲府市)
 育 成 者 清 水 明 (甲府市)

第31回 夏休みふるさと子どもランドカーニバル

- 期 日：平成26年7月25日(金)～27日(日)
- 会 場：山梨県立八ヶ岳少年自然の家
- 参加者：東京県人会と山梨県の子どもたち、指導者、育成者、保護者、山梨のJ・L、参加者69名

ランドカーニバルを終えて

竜王小学校 6年 柏 木 月 菜

今回のランドカーニバルは私にとって初めてのランドカーニバルだった。しかし、初めてはそれだけじゃなかった。初めて会う人たちや、初めてのけしゴムはんこ作りなど、様々な体験ができた。最初は新しい仲間や自然いっぱい環境になじめず無言で、びみょうにきんちょうしながら過ごしていたが、だ

んだん時間がたつにつれ、心を開ける友達が1人、2人と増えていき、ちがう班の子とも笑顔で話せるようになった。ナイト追せきでは、もうみんなと気軽に話せるようになっていた。

3日間で1番印象に残ったのはキャンプファイヤーだ。「協力」「自由」「愛情」「健康」「友情」のテーマにあわせてだし物をだしあったり、みんなで輪になって歌ったりおどったり、時には静かにし、火をみつめてみると、本当に楽しい時間を過ごせ